

いくとびあ食花要求水準・目標値(評価指標)

視点	評価項目	令和6年度 評価指標	いくとびあ食花4施設	食と花の交流センター	食育・花育センター	動物ふれあいセンター	こども創造センター	令和6年度実績	評価	評価コメント
市民	入場者数	いくとびあ食花4施設の来場者数 :最終年度(R9)までに170万人以上/年 ※令和6年度目標 1,630,000人	○					1,596,000	C	指標を下回った
	団体利用	食と花の交流センター :最終年度(R9)までに利用団体260団体以上/年 ※令和6年度目標 220団体		○				184団体	C	指標を下回った
		食育・花育センター :最終年度(R9)までに利用団体370団体以上/年 ※令和6年度目標 350団体			○			396団体	A	指標を上回った
		動物ふれあいセンター :最終年度(R9)までに利用団体400団体以上/年 ※令和6年度目標 380団体				○		379団体	C	指標を下回った
		こども創造センター :最終年度(R9)までに利用団体370団体以上/年 ※令和6年度目標 340団体					○	480団体	A	指標を上回った
	体験と学習	団体系験プログラムの実施:最終年度(R9)までに320回以上/年 ※令和6年度目標 320回/年	○					817回	A	指標を上回った
	交流の拡大	交流イベント :8回以上/年	○					8回	B	指標通り
	多彩な事業展開	食・花・こども・動物分野のコラボ事業の実施 :300回以上/年	○					337回	A	指標を上回った
	食育・花育の推進	・料理教室等の開催 :60回以上/年 (主催・共催・委託を含む) ・食育ミニ体験の開催 :120回以上/年			○			・料理教室等:70回 ・食育ミニ体験:148回	A	指標を上回った
		・園芸講座等の開催 :80回以上/年 (アトリウムでの開催を含む) ・花育体験の開催 :48回以上/年			○			・園芸講座等:83回 ・花育体験:99回	A	指標を上回った
	食と花のプロモーション	企画イベント :30回以上/年		○	○			104回	A	指標を上回った
	譲渡事業の推進	・市に收容された犬の譲渡率 :70%以上/年 ・市に收容された猫の譲渡率 :40%以上/年					○	犬の譲渡率:87.0% 猫の譲渡率:94.6%	A	指標を上回った
広報の充実	・HPの情報更新 :360回以上/年 ・SNSによる情報発信 :360回以上/年	○					・HPの情報更新:1,519回 ・SNSによる情報発信:1,073回	A	指標を上回った	
利用者の満足度	利用者アンケートで「満足」が85%以上	○					94.7%	A	指標を上回った	
財務	適正な財政運営	収支計画に基づく収入の確保及び費用の執行	○					指定管理収支が赤字	C	指定管理収支が赤字
		利用者ニーズを踏まえた開館日数・開館時間等の設定による効率的な運営	○					12月から3月第3火曜日まで 冬休みを除く毎週火曜日を休館とした(平時は毎月第2、第4火曜日を休館としている)	B	指標の通り
	適正な財務管理	財務マニュアルの作成及び収支状況の記録	○					適正に実施	B	指標の通り
業務	安心・安全の確保	・防災訓練:年2回以上実施 ・防災マニュアル及び安全管理マニュアルの作成	○					・防災訓練:2回実施 ・マニュアル作成済	B	指標の通り
	コンプライアンスの徹底	職員へのコンプライアンス研修受講 :1回以上/年	○					1回	B	指標の通り
	市内産業の貢献	・再委託する場合の市内事業者への再委託及び資材等の市内事業者(店舗)等からの調達率 :90%以上	○					90.0%	B	指標の通り
	市民協働の推進	ボランティアの受入れ :延べ700人/年以上	○					436人	C	指標を下回った
		市内の動物関係団体等との連携事業 :6回以上/年 市内の子ども創作・体験活動に関する個人および団体等との連携事業 :200回以上/年				○		12回 167回	A C	指標を上回った 指標を下回った
社会貢献	施設内の各種作業についての障がい者の受付 :延べ50人/年以上	○					48人	C	指標を下回った	
人材	労働基準の充足	労働関係法令の遵守	○					適正に実施	B	指標の通り
	業務の理解度と習得度	職員の業務研修 :1人あたり2回以上/年	○					9.5回	A	指標を上回った
	市内雇用の貢献度	市内住居者の雇用率 :90%以上	○					96.8%	A	指標を上回った

■ 食と花の交流センター

今年度は、いくとぴあ食花オープン10周年を記念した10周年祭を実施し、多くのお客様からご来場いただき好評を得た。交流イベントについては、この10周年祭を含め年間8回すべて予定通り実施することができた。全開催日を通しての合計来場者数は66,345人(前年度比+19,437人)となった。年間の入場者数は714,639人(前年度比+18,560人:103%、前々年度比+10,160人:101%)で前年度を上回った。施設別では、ガーデンが291,043人(前年度比+2,684:101%)、レストランが30,130人(前年度比+2,120人:108%)、直売所は373,689人(前年度比+17,226人:105%)でいずれも前年度を上回った。団体利用では184団体(前年度比-3団体:98%)、7,190人(前年度比+505人:108%)の利用があり、前年度を件数では下回ったが人数では大きく上回った。食と花のプロモーション事業では、ガーデンでの植栽管理・ガーデニング関連事業55回、ガーデンでの実地講座とガーデンを会場としたイベントがそれぞれ32回、花に関連した展示が7回、ワークショップを5回、その他5回の合計104回実施し要求水準の30回以上を大きく上回った。広報の充実では、HPの更新回数527回、SNSによる情報発信480回といずれも要求水準を上回った。今後も積極的にSNSを活用し、大勢の方に情報を発信していきたい。コラボ事業の実施では、いくとぴあ食花内での連携事業として55回、外部団体とのコラボ事業や外部講師によるガーデン管理指導等の事業が24回、合計79回実施する。

■ 食育・花育センター

入館者数は314,916人で(前年度比:111%、前々年度比:113%)であった。また、休日1日の年間利用者平均は1,389人(前年度比:111%)、平日1日の年間利用者平均は681人(前年度比111%)であった。団体利用に関しては396団体、12,607人(前年度比:件数97%、人数108%)の利用があり件数は下回ったが、人数は上回った。要求水準350団体も上回った。団体種別では、小学校が122団体、保育/こども園が120団体(全体の約61%)が多く、次いで福祉関係団体63団体と続いた。活動内容として団体体験プログラムでの利用が延べ200団体で最も多く、次いで自由見学が延べ173団体であった。食育推進事業として料理教室等223回(前年度比較-5回:98%)で、料理教室、食育ミニ体験の回数はわずかだが減少となった。人数では(前年度比較-587人:91.2%)であった。花育推進事業は、園芸講座等において205回(前年度比較+31回:118%)で、花育ミニ体験が(前年度比+30回:143%)と増加し、前年度を上回った。どちらも要求水準としては上回ることであった。

・花育ミニ体験の充実

年間を通してコンスタントに開催し、スタッフの考案と花育マスター様との連携により更に昨年を上回ることができた。

・展示コーナー

食育展示コーナーは修繕・改修を行い、新潟市食と花の推進課様及び開志専門職大学事業創造学部との連携にて内容を充実させることができた。学生にはイベントにてお客様への展示の紹介も含め対応も行った。花育展示コーナーも今年度中に改修が行われ徐々にではあるが内容も今後充実させる。

・ボランティア活動

昨年に続き一般、学生も増加しておりイベントを中心に行われている。中にはリピートしていただいたり他の体験等で参加したいとの申し出もある為、今後も引き続きとりいれいき、食育・花育に興味や関心をもっと持っていただけるようにしていきたい。

■ 動物ふれあいセンター

【アピールしたい事項】

入館者数、団体利用数共に指標を大きく上回り、施設満足度、利用者満足度も指標を大きくクリアした。また、譲渡の推進に関して、高い水準で着地する事ができた。引き続き適切な運営を行い、この水準を維持したい。

【未達成項目への改善策等】

コラボ事業の実施数が指標を大きく下回った。動物誕生の際には、全館と連携した名前募集企画の実施や、ガーデン及び情報館で開催するイベント数を増やす等の対策を行い、コラボ事業の実施に繋げていく。

■ こども創造センター

令和6年度は、開館335日(令和5年度334日)であったが、年間利用者数212,429人・一日平均利用者数631人となり、前年度を上回った。前年度に引き続き、新潟市民の身近なお出掛け先としての定着・拡大が進んでいる。また、乳幼児を連れた若い世代、とりわけイクメンパパの増加が見られ、変わらず、上中越・佐渡・粟島・村上や特別支援学校の修学旅行先としての利用もあった。

平日利用の増加については、「ベビーマッサージ教室」「親子リトミック」「おロリトミック」「ストレスケア教室」「赤ちゃんと産後ママのためのエクササイズ」「親子でヨガ」等の平日開催サポーター協働型乳幼児向けイベントが増加・定着し、ロコミ等で広がっていることが伺える。

<次年度重点事項>

○ 乳幼児を連れた利用者の方が楽しめる事業をさらに継続・発展させるとともに、長期休業中の園児・小学生や年度末・年度初めの新潟市転入の親子さんのさらなる利用促進に努める。また、先進的な幼児教育や新潟市こども条例等のさらなる啓発活動を行う。

○ 公共の教育施設を使用する際のマナーについて、さらなる啓発を継続し、安心・安全で楽しく遊び・学べる施設の周知に努める。

○ さらに広くボランティアを募ると共に、ボランティアとの一層の協働等により、年間20万人を超えるこども創造センターの、キャパシティを超えた際の対応に備える。

所管課による総合評価(所見)

【全体評価】

各施設とも設置目的に沿った事業を積極的に実施し、事業計画書に従った適切な管理運営が実行されている。

6月に行われたいくとぴあ食花10周年祭も盛況に終わり、季節ごとのイベントも毎年の恒例イベントとして市民に広く定着してきている。施設同士のコラボレーション企画も積極的に採用しており、施設全体の満足度も高水準を維持できていることを高く評価する。

施設の老朽化などが進んでいる状況ではあるが、引き続き4施設の特徴を生かした企画や運営・経営の工夫により、多くの方に満足いただける施設となるよう取り組んでいきたい。

【食と花の交流センター(所管課:食と花の推進課)】

食と花の交流センター単独で見れば来場者数は増加しており、R6年度は過去最高の来場者数を記録した。直売所の集客率が全国的に好調なこともあるが、ガーデンでの4月のチューリップと5～6月のバラをメインとした催しが定着し、リピーターを獲得していると考えられる。評価指標となっている団体利用については、件数では目標値及び前年度件数を下回っているが、人数で見れば昨年度よりも増加しており、引き続き団体利用者獲得に向けて効果的な広報を続けていただきたい。同じく評価指標に上がっている食と花のプロモーション事業については目標値を大きく上回っており、ガーデンでの活動を中心に、食と花の交流センターならではの取り組みを積極的に行っている姿勢を高く評価する。

引き続き、食と花の交流センターの特色を活かしたイベントや取り組みを行い、リピーター確保に加え新規顧客層の開拓に努めていただきたい。

【食育・花育センター(所管課:食と花の推進課)】

食育・花育の推進という設置目的に沿った事業を積極的に実施している。

花育ミニ体験における、花育マスターとの連携による実施回数の増加、企画イベントの増加及びボランティアを通じた他事業への展開により、施設全体の活性化に寄与していることを高く評価する。

食育・花育展示については、来館者の関心や学びを一層深めていける場となることを期待する。

【動物ふれあいセンター(所管課:動物愛護センター)】

設置目的に沿った体験事業を積極的に実施し、事業計画書に基づき適切に管理運営されている。

利用者アンケートによる業務改善のみならず、それを掲示することにより市民にフィードバックした。自主販売事業およびイベント事業を拡大し、利用者数や満足度について指標を上回ったことを高く評価する。

次年度は、各センター間の垣根を超え、いくとぴあ食花の特長を活かしたコラボ事業の実施数増加への取り組みに期待したい。

【こども創造センター(所管課:こども政策課)】

平日平均利用者数は微減になったが、休日平均利用者数は増加している。

引き続き高いリピーター率やgoogle等の検索上位表示も維持されており、着実な取り組みが成果として表れていることを評価する。